

慢性疼痛に対する自家脂肪由来幹細胞による治療

(再生医療等提供計画番号)

同意説明書

1) はじめに

本治療は、患者様ご自身から採取した脂肪を用いるものであり、細胞をご提供頂く方と再生医療等を受ける方が同一であり、全て任意で行われるものです。この説明書は当治療の内容・目的などについて説明するものです。よくお読みいただくとともに、医師の説明をよくお聞きになり、本治療をお受けになるか否かをお決め下さい。

2) この治療の概要

この治療は、自家脂肪由来幹細胞が、傷ついた組織を修復し、痛みの原因となる炎症を抑える抗炎症因子を分泌する機能を持つことを利用し、疼痛の改善を図る治療法です。

慢性疼痛の患者様を対象に、患者様本人から取り出した脂肪の中から、幹細胞だけを集めて培養し、十分な数になるまで増やし、その幹細胞を静脈に点滴して患者様ご自身の身体に戻します。実際の手順は患者様の腹部または臀部などを少し切開して脂肪組織を採取します。また同時に細胞培養に必要な血清成分を抽出するため、60mlほどの採血をします。脂肪の中から幹細胞だけを集めて数週間～1ヶ月程度かけて細胞を増やします。その後、静脈へ投与することにより体内に戻すという内容となります。私たちの身体の中の細胞は絶えず入れ替わっています。また、これらの細胞の中には、再び細胞を生み出す力を持った特別な細胞があります。この特別な細胞が「幹細胞」です。幹細胞には、次の二つの能力があります。一つは、皮膚・赤血球・血小板など、私たちの身体を作る様々な細胞を作り出す能力(分化能)、もう一つは同じ能力を持った細胞に分かれる能力(自己複製能)です。

「幹細胞」は、生まれた時が最も多く体内に存在していますが、20歳台では、生まれた時の約1割程度にまで減っていることが、これまでの研究で明らかにされています。このように幹細胞は、加齢とともに減少していくことが分かっています。

骨細胞、心筋細胞、軟骨細胞、腱細胞、脂肪細胞などに分化する幹細胞を間葉系幹細胞と言い、現在、日本において、数多くの医療機関で治療に用いられている幹細胞が、この間葉系幹細胞にあたります。間葉系幹細胞は、人の骨髄・脂肪組織や歯髄などから比較的容易に得ることができ、これまでの研究で、間葉系幹細胞が骨芽細胞・脂肪細胞・筋細胞・軟骨細胞などだけではなく神経などの細胞にも分化する能力を持つことが分かっています。

今回の治療に使用する間葉系幹細胞を体外で培養し、細胞数を増やした後に点滴で体内に戻すという治療が色々な病気の進行を抑制し、改善すると報告されています。

当院では、患者様の脂肪組織に含まれる脂肪由来の間葉系幹細胞を用いて神経再生と身体機能の改善を目的として静脈に投与する治療を行います。

3) この治療の予想される効果及び危険性

効果：この治療では、ご自身の脂肪から取り出して数を増やした幹細胞（自家脂肪由来幹細胞）を点滴で体内に戻すことにより、幹細胞が、体内の傷ついた場所に集まり、炎症を抑え傷ついた

組織を修復することで、痛みの原因となる慢性炎症を抑え、末梢神経などの傷害部位を修復し、疼痛などの症状を改善させる効果が期待されます。

危険性：脂肪由来幹細胞を取り出すため、患者様の腹部または太ももの内側の皮膚を切開します。それに伴い出血、血腫、縫合不全、感染等が出る可能性があります。また細胞投与については、拒絶反応の心配はありませんが、投与後に発熱、まれに嘔吐、注入箇所腫脹が出る可能性があります。また、細胞加工工程において生じる工程内不純物等によるアレルギー反応により、ショック・アナフィラキシーを起こすこともあります。またこの治療は患者様自身の脂肪組織を原料とするため、必要かつ十分量の自家脂肪組織を採取する必要がありますので、切開等による傷痕が残る可能性がございます。

脂肪採取には、穿刺による方法、吸引による方法、切開による方法と3通りがあり、それぞれのメリット、デメリットは以下の通りとなります。

メリット	デメリット
A) 穿刺法 侵襲が少ない(傷が小さい)	傷のサイズに比して内出血範囲が大きい
B) 吸引法 侵襲が少ない(傷は穿刺法よりやや大きい)	切開部位の癒痕形成の可能性あり
C) 切開法 目視下での採取、比較的容易	傷跡が目立ちやすく、癒痕形成の可能性あり

・穿刺法による脂肪採取は、臍横周囲の比較的脂肪層の厚い部位を選択し、穿刺部位にメス先端で3ミリ程度の切開を入れ、そこから全長10センチ程度の組織穿刺針を刺入することで採取します。切開後、その切開部位から周囲15センチ程度まで局所麻酔薬を注入し、その後に穿刺針を刺入し、脂肪組織の採取をおこないます。穿刺法においては、5ミリ程度の皮膚切開で穿刺が可能のため、手術後の傷跡が小さく目立たず、傷跡自体はホクロのような小さな点が残る程度ですが、切開部位から周囲15センチ程度までは、局所麻酔薬の投与や穿刺針の刺入により、皮下出血の可能性がございます。またごくまれに色素沈着や軽度の感覚障害といった皮膚や神経にダメージが残る場合があります。

・切開法で行った場合組織採取に際しておよそ4センチ前後の皮膚切開を行うために出血が発生することもあり、十分に止血を行った場合でも術後に皮下血腫形成や皮下硬結等を生じる可能性があります。また、圧迫が必要になる可能性や皮切部に生じる肥厚性癒痕(ミミズバシ状の傷跡)やケロイド、陥凹変形、色素沈着の可能性、そのほか原疾患の影響により醜状の残存の可能性がございます下記のような副作用を伴う恐れがあります。

・吸引法においては、1センチ程度の切開であるため、手術後の傷跡が切開法に比べれば目立たなく、侵襲もそれほど大きくありませんが、吸引のためのカニューレ挿入時や操作時の皮膚の挫滅などの可能性があります。また同様に皮下血腫や硬結などが残存する可能性があります。下記のような副作用を伴う恐れがあります。

- 感染症

処置に伴う穿刺針刺入の際の傷、脂肪組織の採取に伴う内部組織の損傷などにより、刺入部周囲の感染症が起こる可能性があります。

- 脂肪塞栓症

広範囲で多量の脂肪の吸引が必要な場合には、脂肪を吸引するためにゆるめられた脂肪組織が血管の中に入って血栓症を引き起こすことがあります。肺で血栓を起こすと肺塞栓に、脳に移動すると脳塞栓に至ります。

- 多量出血

穿刺や切開によりまれに血管損傷の可能性があります、その際には出血による貧血やショック症状などが起きる場合があります。

- 内臓損傷

腹部の脂肪吸引の際にカニューレの操作を誤ると、内臓を損傷してしまう可能性があります。内臓損傷による死亡事故の報告もあります。

- その他のトラブル

手術後の軽度の痛み、しびれなどの感覚異常、手術の腫れが1ヶ月程度続くことがあります。また、皮膚のたるみや凹凸の出現などが起こることもあります。

術後の経過について：

手術後 2～3 週間ほどで、手術部位に多少の硬さが出てくる場合があります（硬結）。

傷跡や色素沈着は、徐々に目立たなくなります。

- 切開法や吸引法を行った場合には手術後3日間は、むくみを抑え、回復を早めるために手術部位を圧迫固定します。1週間後に傷口の抜糸を行います。

術後の処方薬としては、必要に応じて痛み止め薬や抗生剤のほか、血栓を予防するためにプラザキサやイグザレルトなどの抗凝固薬を服用頂く場合があります。当薬の副作用としては、消化不良、下痢、吐き気、鼻血、皮下出血などがあります。

- 穿刺法で行った場合には基本的には圧迫および抜糸は必要ないため、これらの処置や内服も必要ありませんが、状況や症状に応じて行うこともあります。

術後の注意事項について：

脂肪採取後は30分程度、院内で安静にさせていただき、容態を観察させていただきます。

採取に伴う疼痛や出血などの問題がなければ帰宅させていただきます。

切開法および吸引法で行った場合には

手術後1週間は、水を多めに取り、喫煙、飲酒はなるべく控えてください。

手術後2週間は、歩く程度の運動以外、激しい運動は控えてください。

シャワーは、手術後3日目以降に防水テープをしっかりと貼って、行ってください。

穿刺法で行った場合には当日のシャワー浴は可能であり、入浴は3日以降からとします。

また、細胞の活性や生存率を保つ目的でヒト血清アルブミン製剤が添加されています。本剤はヒト血液を原料として製剤化されたもので、原料採取時には問診、感染症関連の検査が実施されています。さらに、製造工程で一定の不活化・除去処理が行われており、感染症に対する安全対策が講じられています。しかしながら、ヒトパルボウイルスB19等のウイルス及び変異型

クロイツフェルト・ヤコブ病の原因となる異常プリオンを完全に排除できないため、それらの感染の可能性を否定できません。重大な副作用として、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーを起こすことがあります。その他の副作用として過敏症（発熱、顔面潮紅、蕁麻疹等）、悪寒、腰痛などを引き起こすことがあります。

その他に、重大な副作用として過去に本治療との因果関係は不明ですが、1例の肺塞栓症が報告されています。しかしそれ以降は報告されておられません。さらに将来、腫瘍を発生させる可能性も否定しきれません。ただし国内では1例の報告もありません。また、本治療によって、患者様の健康上の重要な知見、また子孫に対する遺伝的特徴を有する知見が報告された例はございません。今後もし、それらの知見が得られた場合には、患者様へ速やかにお知らせいたします。また、治療の効果向上、改善を目的とした関係学会等への発表や報告等、匿名化した上で患者様の治療結果を使用させていただくことがあります。

なお、本治療に用いる幹細胞は、患者様の脂肪組織から採取し、院内に併設する細胞加工施設で培養が行われます。この細胞加工施設では、厳格な基準のうえで、培養と検査を実施しますが、無菌検査とマイコプラズマ否定試験に関しては中間試験報告のみで投与を実施いたします。投与後に陽性が確認された場合には適切な抗生剤の投与等の処置を行います。

4) 他の治療法について

慢性疼痛の治療法は対症療法が主であり、手術療法などの根治療法がないのが現状です。保存療法としましては（内服薬、貼り薬、神経ブロック、髄腔内持続注入など）、理学療法（温熱療法、牽引療法、マッサージ、はり治療）、物理療法（レーザー治療、直線偏光近赤外線治療など）、カウンセリングなどの心理療法が中心となっているだけで、現状の治療法では十分な疼痛緩和が行えているとは言えません。このように現行の治療は、疼痛症状の調節と治療による副作用を最小化するための治療法があるだけで、完治できずに多くの人々が苦しんでおります。本治療では、患者本人の脂肪由来幹細胞を投与します。末梢神経の炎症部位や過敏になっている末梢神経障害の部位に直接作用することから、根治的な治療となり得る可能性があります。

5) 本治療に参加いただく前に確認したいこと

この治療に参加いただけるのは以下の条件に当てはまる方です。

- ・神経障害性疼痛または侵害受容性疼痛と診断されている患者、もしくは左記疾患が強く疑われる方
- ・慢性疼痛に関する他の標準治療法で満足のいく疼痛緩和効果が認められなかった方、または、副作用等の懸念により、標準治療で用いられる薬物による治療を希望しない方
- ・本再生医療の同意説明文書の内容が理解出来、同意書に署名及び日付を記入した方。

また、以下の条件に当てはまる方は、本治療を受ける事が出来ません。

- ・脂肪採取時に使用する麻酔薬（局所麻酔用キシロカイン等）に対して過敏症のある方
- ・病原性微生物検査【HIV（ヒト免疫不全ウイルス）、HCV（C型肝炎ウイルス）、HTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）、梅毒】が陽性の方

※本治療の同意が得られましたら、患者様より採血を行います。採血した血液は専門の検査センターに送られ、一週間程度で検査結果が判明します。

- ・妊娠している方
- ・未成年の方
- ・悪性腫瘍を併発している方
- ・ペニシリン、ストレプトマイシン、アムホテリシンへのアレルギー反応を起こした事のある方
- ・その他、治療担当医師が本再生医療の施行を不相当と認めた方

また、以下の項目に該当する方は、治療担当医師が十分に検討を行い、本再生医療を提供することの可否について、慎重に判断いたします。

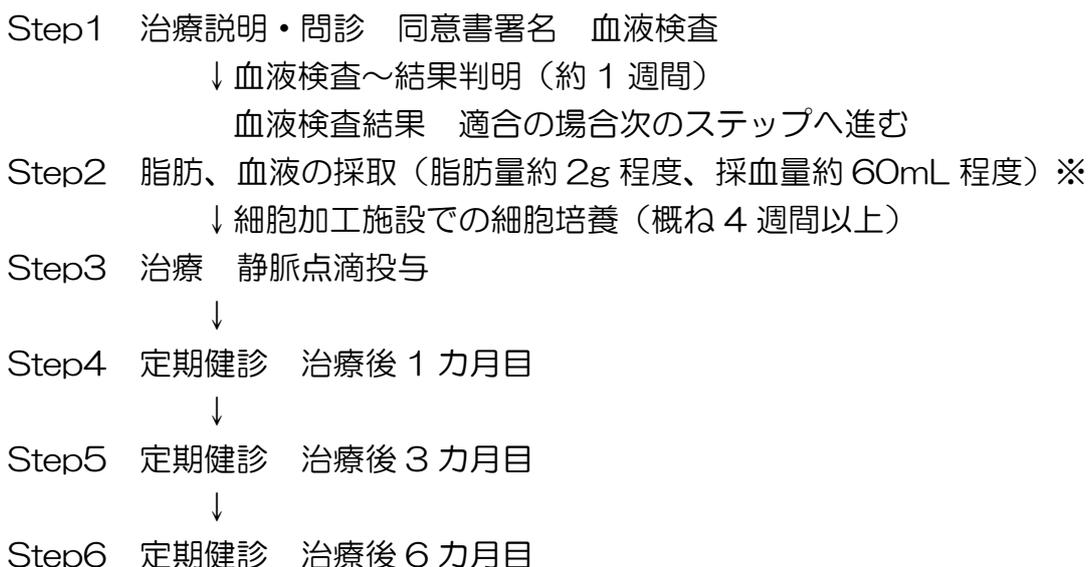
- ・重度の心・血液・肺・腎・肝機能疾患や脳疾患、精神疾患を併発している方
- ・悪性腫瘍の完治後、5年以上が経過し再発がない方
- ・出血傾向のある方

6) 治療スケジュール

実際の手順は患者様の基本腹部または臀部より採取することとしこれらの部位を少し切開して穿刺針にて穿刺を行うことにより脂肪組織を採取します。脂肪の中から幹細胞だけを集めて数週間～1ヶ月程度かけて細胞を増やします。その後、静脈へ投与することにより体内に戻すという内容となります。

これを2週間以上の投与間隔で有効性および安全性を確認しながら、医師の判断のもと投与回数を決定して参ります。患者様の状態によっては1回の投与で治療を終える場合もあります。

治療の流れとしては、以下の通りです。



※Step4～6について、定期的な通院がどうしても困難である場合は、電話連絡などによる経過の確認、または近医での診療結果および当院が指定する医療情報をご提供いただきます。

※投与2回目以降は脂肪の採取は必要ありませんが、投与回数に合わせ都度、採血が必要です。

7) 同意の撤回方法について

本治療を受けることについて同意した場合でも、培養した幹細胞の点滴を受ける前であればいつでも同意を撤回することができます。同意撤回はあなた様からの細胞提供の前後、あるいはあな

た様への細胞投与直前のいずれの段階においても可能です。治療に対する同意の撤回を行う場合には、この同意説明文書とともにお渡しする「同意撤回書」に必要事項をご記載のうえ、担当医師または当院窓口にご提出ください。その場合はそれ以降の治療と幹細胞の点滴を全て中止します。

8) 同意の撤回により、不利益な扱いを受ける事はありません。

この治療は、患者様の意思により、任意に行われます。医師の説明をよくお聞きになり、本治療をお受けになるか否かを患者様にご判断いただきます。この説明を受けた上で本治療を受けることを拒否したり、当該療法を受けることを同意した後に同意を撤回した場合であっても、今後の診療・治療等において不利益な扱いを受けることはありません。

9) この治療を中止する場合があること

患者様の都合や体調により、医師の判断で治療を中止または変更する場合があります。この場合、脂肪採取後は未投与であっても、手術費や培養開始分等の費用については返金出来ません。

10) 患者様の個人情報保護に関すること

患者様の個人情報は個人情報保護法に則って厳格に取扱われるため、クリニック外へ個人情報が開示されることはありません。ただし、治療の効果向上を目的とした関係学会等への発表や報告、並びに当クリニックの治療成績の公表等へ匿名化した上で患者様の治療結果を使用させていただくことがあります。

11) 細胞加工物の管理保存

採取された組織は併設する院内細胞加工センターに搬送され、細胞培養に使用されます。加工された細胞の一部は、参考品として、投与後6ヶ月間、 -80°C にて冷凍保存され、その後は、各自治体の条例に従い、適切に破棄されます。

12) 患者様から採取された試料等について

患者様から採取した組織材料は、本治療以外に用いることはなく、また、本治療以外の目的として、他の医療機関へ提供することも個人情報が開示されることもございません。

13) この治療の費用について

本治療は保険適用外であるため、治療にかかる費用全額をご自身でご負担いただきます。本治療にかかる費用は1回¥2,000,000(税別)となっております。なお、脂肪の採取後や、細胞加工物の製造後に同意を撤回された場合など、同意を撤回される時点までに発生した費用(治療費等)については、当院のキャンセルポリシーに基づきご負担いただきますので、ご了承ください。

14) いつでも相談できること

治療費の説明や、治療の内容、スケジュールにつきましては、いつでもご相談頂くことが可能です。本治療についての問い合わせ、苦情の受付先について、遠慮なく担当医師にお聞きになるか、以下にご連絡をお願いいたします。

施設名：AL CLINIC

院長：角 昭一郎

連絡先：TEL 03-6228-4625 | FAX 03-6228-4626

15) 健康被害が発生した場合について

万一、この治療により患者様の健康被害が生じた場合は、患者様の安全確保を最優先し、被害を最小限にとどめるため、直ちに必要な治療を行います。加えて、本再生医療等提供機関或いは担当医は本再生治療等による患者の健康被害への対応として医師賠償責任保険等（再生医療学会が指定する保険など）を適用致します。

我々は本治療が安全に行われ、治療効果も見られることを期待しています。しかし、この治療は新しい治療であり、その効果についての確証は得られていません。その為、本治療で効果がなかった場合は補償の対象とはなりません。

16) 特許権、著作権その他の財産権又は経済的利益について

この治療を通じて得た患者様の情報などを基にした研究の成果として、将来的に知的財産権などが生じる可能性があります。その際の権利などは、この治療や関連した新しい治療法をさらに発展させていくために、当院ならびに大学などの研究機関や研究開発企業が積極的に活用して行くことを想定しております。患者様の情報については、匿名化したうえで、治療成績や治療結果を各研究機関へ提供する可能性があります。また、この治療を通じて得られた研究の成果は当院に帰属しますので、予めご了承ください。

17) 特定認定再生医療等委員会について

この治療は、厚生労働大臣へ当再生医療の提供計画を提出し、はじめて実施できる治療法です。治療の計画書を作成し、治療の妥当性、安全性の科学的根拠を示さなければなりません。それらの計画資料を先ず、第三者の認定機関（特定認定再生医療等委員会）にて、審査を受ける必要があります。当院で実施する「慢性疼痛に対する自家脂肪由来幹細胞による治療」については、特定認定再生医療等委員会の承認を得て、そして厚生労働大臣へ提供計画を提出し、計画番号が付与されて実施している治療です。特定認定再生医療等委員会に関する情報は以下の通りです。

認定再生医療等委員会の認定番号：NA8200005

認定再生医療等委員会の名称：日本医理工連携 特定認定再生医療等委員会

連絡先：TEL 06-6933-7844

18) その他特記事項

- ・ 投与の前日は、過度な運動、飲酒を控えていただき、十分な休息を取るようお願い致します。
- ・ 細胞投与後は、一時間程度院内で経過観察させていただきます。
- ・ 麻酔薬や抗生物質に対するアレルギーを起こしたことがある方は、本治療を受けることが出来ない場合があります。
- ・ 本治療に関する臨床試験では、妊婦、授乳婦の方への安全性の確認は取れておりません。
- ・ 本治療の安全性及び有効性の確保、並びに、健康状態の把握のため、本治療の最終投与後、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月後に1回の定期的な通院と診察にご協力をお願いしております。定期

的な通院がどうしても困難である場合は、電話連絡などによる経過の確認、または近医での診療結果および当院が指定する医療情報をご提供いただきます。

- 本治療が原因であると思われる健康被害が発生した場合は、当院が必要な処置を無償で行います。患者様に救急医療が行われた場合の費用（搬送費用及び搬送先の病院で発生した費用）につきましても、当院が負担いたします。

19) 本再生医療実施における医療機関情報

【脂肪組織採取を行う医療機関】

名称：AL CLINIC

住所：東京都中央区銀座7丁目13-20 銀座 THビル8F

電話：03-6228-4625

管理者氏名：角 昭一郎

実施責任者氏名：柳澤 綾子

実施医師氏名：角 昭一郎、高橋 孝輔、富永 聡子

<幹細胞投与を行う医療機関の説明>

培養した幹細胞の末梢静脈内への点滴投与については、すべて AL CLINIC で投与を行います。

【幹細胞投与を行う医療機関】

名称：AL CLINIC

住所：東京都中央区銀座7丁目13-20 銀座 THビル8F

電話：03-6228-4625

管理者氏名：角 昭一郎

実施責任者氏名：柳澤 綾子

実施医師氏名：角 昭一郎、高橋 孝輔、富永 聡子

同意書

AL CLINIC

院長 角 昭一郎 殿

私は、『慢性疼痛に対する自家脂肪由来幹細胞による治療』について、同意説明書に基づき、医師から十分な説明を受け、その療法をよく理解し、下記の事項についても納得し同意いたしましたので、「自家脂肪由来幹細胞治療」の実施をお願いします。検査についても、上記同様に承諾同意いたします。

又、治療効果について、個人差により思うような効果が得られない可能性があることも理解致しました。

- はじめに
- 治療法の概要について
- 治療の予測される効果及び危険性
- 他の治療法について
- 本治療に参加いただく前に確認したいこと
- 治療スケジュールについて
- 同意の撤回方法について
- 同意の撤回により、不利益な扱いを受ける事はないこと
- この治療を中止する場合があること
- 個人情報保護について
- 細胞加工物の管理保存について
- 患者様から採取された試料等について
- この治療の費用について
- いつでも相談できること、問い合わせ、苦情の受付先について
- 健康被害が発生した場合について
- 特許権、著作権その他の財産権又は経済的利益について
- 特定認定再生医療等委員会について
- その他特記事項
- 本再生医療実施における医療機関情報

年 月 日

患者様署名 _____

住 所 _____

電 話 _____

年 月 日

説明医師 _____

同意撤回書

AL CLINIC
院長 角 昭一郎 殿

私は、AL CLINIC の『自家脂肪由来幹細胞治療』について、同意説明書に基づき、医師から十分な説明を受け、 年 月 日より治療の実施に同意をし、同意書に署名を致しましたが、この同意を撤回致します。

なお、同意を撤回するまでに発生した治療費その他費用については、私が負担することに異存はありません。

同意撤回日 年 月 日

氏 名 _____ (署名又は記名・捺印)